



生活クラブ風車



夢風News

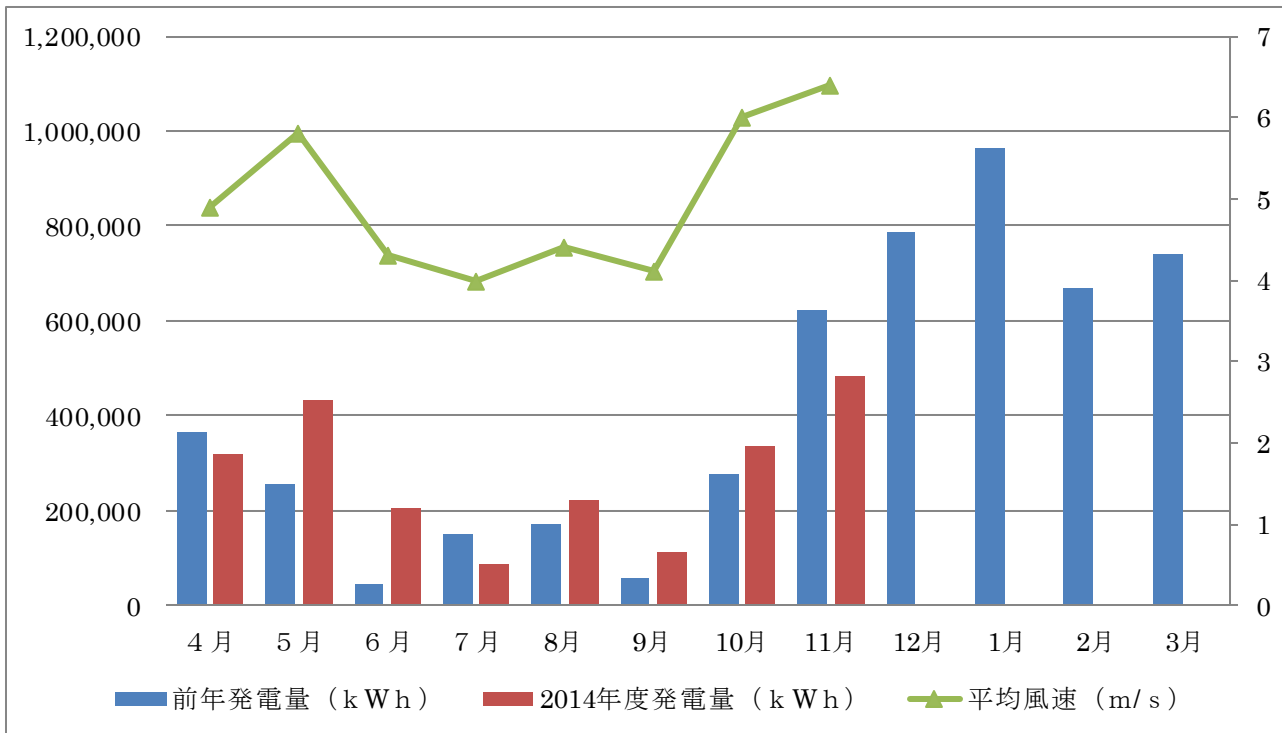
Vol.30

●発行 2014.12.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2014年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用 率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風 速 (m/s)	設備利用 率 (%)
4月	320,524 【88.0%】	4.9	22.4	10月	335,268 【120.2%】	6.0	22.6
5月	431,507 【167.3%】	5.8	29.1	11月	481,824 【77.6%】	6.4	33.6
6月	201,904 【440.5%】	4.3	14.3				
7月	87,899 【58.0%】	4.0	5.9				
8月	223,914 【129.3%】	4.4	15.1				
9月	112,694 【191.3%】	4.1	7.9				



- 秋田県内では11/13に昨年より2日遅く初雪が観測され、13日から14日にかけてにかほ市でも雪がちらついていました。
- 昨年に比べ風が弱く、発電量は前年を下回っていますが、今月も順調に稼働しました。



～横浜みなみ生活クラブ事務局長の加藤稔さんから頂いた報告「週刊事務局長 第10号」より抜粋～

先日、首都圏4単協リーダー研修で、生活クラブ風車「夢風」の建設地、秋田県にかほ市へ行って参りました。自然エネルギーについて、加藤はまだまだ知らない事が多すぎました…膨大な資料を使った報告はできませんので、加藤が感じた事と、疑問に思った事を調べて簡単に書いてみます。

エネルギーは食料に次いで生活に必要なもの

江戸時代のエネルギーは、照明は油を使った行燈、暖房や給湯は木炭や薪のバイオマス。産業として製鉄は砂鉄と木炭、動力源としての水車。江戸時代はエネルギー自給100%でした。食の自給も100%。戦後は食の自給70%となり現在は40%まで落ちていますね。

私たちが必要なのはエネルギー自体ではなく、エネルギーが提供するサービス、電力。

- ・火力発電→有限な化石燃料(温暖化原因のCO2排出)
- ・原子力発電→核でお湯を沸かしてタービンを回す仕組み。(甚大の被害)
- ・自然エネルギー→その土地の風や光、水、バイオマス(自然の力を生かす)

自然エネルギーは実は農林水産業と似ていますね。

日本ではまだまだ進んでいない自然エネルギー

ヨーロッパで出来て日本で出来ない事はないのだけど、太陽光ばかり進んだとか、自然エネルギーは進められないとか、目標値も定めていないのに…

FIT導入した事で飛躍的に自然エネルギーが増加するのはわかっていたのに、国や電力会社はそのためのインフラ(電力網などの社会基盤)整備をしてくれなかった。電力会社の接続保留問題は自然エネルギーは「良くない」キャンペーンが張られていると同じだと思います。正しい情報を伝えることが重要とこれまでに生活クラブは国に意見書を提出しています。自然エネルギーバッシングと闘うのだ！

私たちは選ぶことができます

という言葉に納得。市民がエネルギーを選ぶ時代！

生活クラブ風車建設の目的は

- ・エネルギーは「食」と並んで生活に欠かせないもの、自分たちでエネルギーをつくるチャレンジ。

- ・脱原発、小規模・地域分散型の再生可能エネルギーの実践
- ・自ら使うエネルギーを「選択」し、エネルギーを市民で自治する運動のスタートとする。

必要なものを自分たちで作り出す。食料、エネルギー、たすけあいの自治をすすめる。これぞ生活クラブ生活協同組合ですね。

今後 2016 年に組合員に供給する準備をすすめます。電気の共同購入を進めていく考えです。生活クラブらしい自分たちの電力、どう使っていくか楽しみですね。

この写真（右）は、昨年、港南センターで片付けをしていた時に見つけた新聞記事の切り抜きです。古いパネルに入っていました。1993 年の記事です。パネルには、自然エネルギーを推進していこうという内容の記事やイラストが描いてありました。当時の環境委員の方たちが作成していたようです。この時活動していた方たちの思いが、20 年後に実現したのです。生活クラブ運動の歴史を感じました。

消費材もそうですが、先輩組合員が活動してきた大切な思いをこれからも次の世代に引き継いでいきましょう。



～生活クラブ埼玉 福祉推進部 眞田尚雅さんから頂いた報告 「コンパス」より抜粋～

☆一次産業としての再生可能エネルギーって？

昔から、エネルギーは日常の暮らしに必要なものとして、歴史的にも私達の生活に密着していました。自給率 100%の江戸時代では再生可能エネルギーを使いながら、地域で循環する仕組みを持っていたのだと言えます。実は、現在の再生エネルギーも、その地域の風や光やバイオマス等を活用した、自然の力で作られた「作物」と捉えることができます。再生エネルギーの元になる、風力なら風、太陽光なら光、水力なら水、バイオマスなら薪等、農業を行ううえでも必要となるものが重なり非常に似ています。農業などの一次産業従事者が、自然エネルギーを主体的に供給する立場に立ったとしてもおかしくありません。

地球温暖化の原因となる石油、石炭等の化石燃料や、非常に大きな被害をもたらして、今直制御できないまま再稼動に踏み切ろうとしている原発などをすすめる日本は世界的に見ても、再生可能エネルギー利用の割合が低くなっています。気候変動の影響が異常気象、生態系の破壊や感染症の増加など、現在のペースでいけばあと 30 年で限界を超えと言われていています。「化石燃料と気候の大混乱」の破壊的な道に進んでゆくのか、それとも「コミュニティ所有のクリーンエネルギー時代の先駆けとなるか・・・」私たちは選択することが出来ます【ここら辺は IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第 5 次評価報告書(11/2 コペンハーゲン)から拝借】。

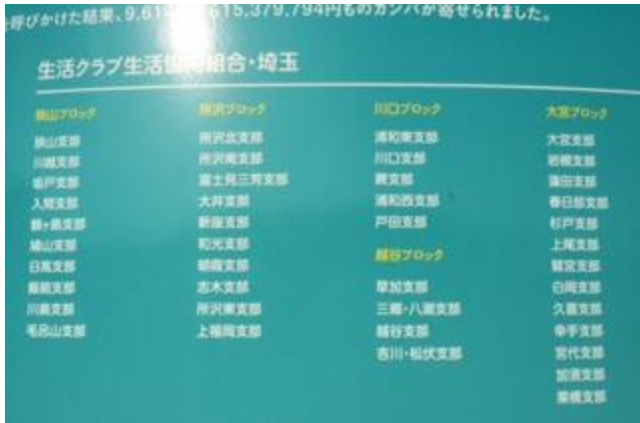
☆みんなの思いが詰まった生活クラブ風車「夢風」

2010 年 8 月から建設に向けた活動が始まり、その後にかほ市の全小学校からの愛称募集があり「夢風ゆめかぜ」に決定しています。カンパの呼び掛けには 9614 人から 1530 万円を超える金額が集まり、埼玉単協の名前が風車に刻まれていたことは、非常に印象として残りました。

風車を作った事がゴールではなく、地元のかほ市との交流や意見交換など、今回の私達の研修も含

め継続しています。今後、新たな消費材開発の挑戦などに組合員も巻き込んで、息の長い活動にしていかなければと思っています。

風車が出来てまだ2年とちょっと。まだまだ、浸透しているとは言い切れない「夢風」を、代わり循環していく組合員に対して、伝えていく必要を痛感した研修となりました。



夢風のタワーに記載されている組織名



風車のナセルにあがるエレベータに乗る眞田さん

■生活クラブ神奈川 東日本大震災復興支援まつり in 横浜 山下公園 ■

11月29日(土)に生活クラブ神奈川と運動グループ主催で開催された「東日本大震災復興支援まつり」に、にかほ市とグリーンファンド秋田で参加しました。

にかほ市からは、にかほの特産品の販売を行いました。あつみのかりんとうは今年も人気で、去年買って美味しかったので、今年も買いに来たという方もいらっしゃいました。また、象潟うどんを釜揚げにして温かい汁で頂く試食は大好評でした。

グリーンファンド秋田には、今年もゼロノミクマちゃんが登場！かわいらしく脱原発をアピールしてくれました。

当日は生憎の雨の中でも4000人(主催者発表)の来場者があり、今年も出展団体の売り上げの一部を被災地支援に寄付されました。



特産品を販売する秋田県・にかほ市のみなさん



グリーンファンド秋田のコーナー



韓国バレン生協の方とゼロノミクマ